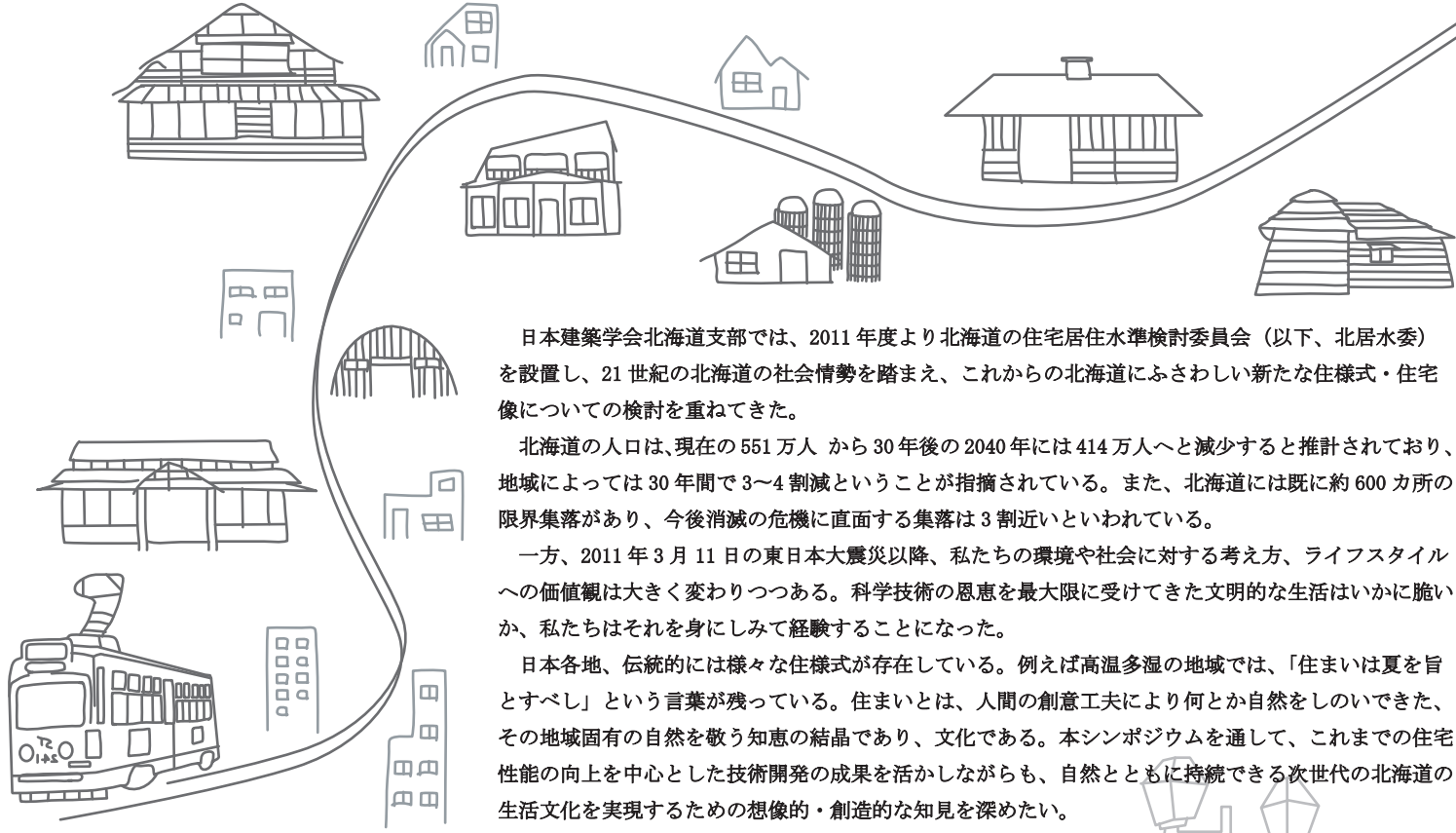




日本建築学会北海道支部では、2011年度より北海道の住宅居住水準検討委員会（以下、北居水委）を設置し、21世紀の北海道の社会情勢を踏まえ、これからの北海道にふさわしい新たな住様式・住宅像についての検討を重ねてきた。

北海道の人口は、現在の551万人から30年後の2040年には414万人へと減少すると推計されており、地域によっては30年間で3〜4割減ということが指摘されている。また、北海道には既に約600カ所の限界集落があり、今後消滅の危機に直面する集落は3割近いといわれている。

一方、2011年3月11日の東日本大震災以降、私たちの環境や社会に対する考え方、ライフスタイルへの価値観は大きく変わりつつある。科学技術の恩恵を最大限に受けてきた文明的な生活はいかに脆いか、私たちはそれを身にしみて経験することになった。

日本各地、伝統的には様々な住様式が存在している。例えば高温多湿の地域では、「住まいは夏を旨とすべし」という言葉が残っている。住まいとは、人間の創意工夫により何とか自然をしのいできた、その地域固有の自然を敬う知恵の結晶であり、文化である。本シンポジウムを通して、これまでの住宅性能の向上を中心とした技術開発の成果を活かしながらも、自然とともに持続できる次世代の北海道の生活文化を実現するための想像的・創造的な知見を深めたい。

プログラム

趣旨説明：森傑（北海道大学・教授）

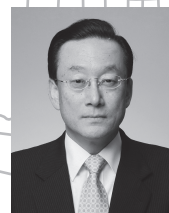
司 会：谷口尚弘（北海道工業大学・准教授）

講 演：30年後の北海道とコミュニティ

金子勇（北海道大学・教授）

【略歴】

1949年福岡県生まれ。九州大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。北海道大学大学院文学研究科教授。文学博士。専門は社会学。



話題提供：次世代居住へのシナリオ／真境名達哉（室蘭工業大学・講師）

住まい観のパラダイムシフト／野村理恵（北海道大学・助教）

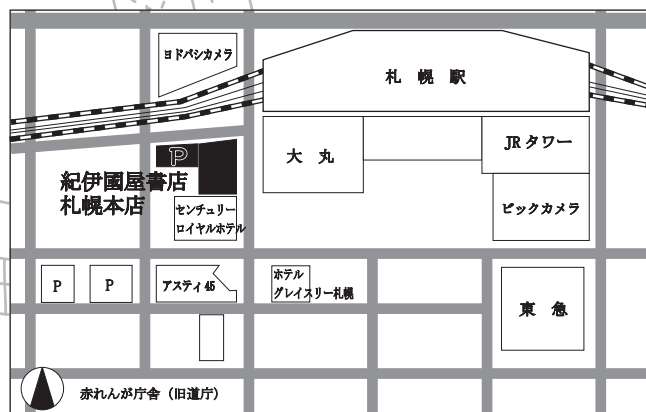
建築家が描く30年後の生活像／照井康徳（照井康徳建築設計事務所）

討 論：講演者・話題提供者＋北海道の住宅居住水準検討委員会委員

2013年1月23日（水）18:00～20:30

紀伊國屋書店札幌本店 sapporo55ビル1階インナーガーデン

お問合せ先 TEL011-231-2131



主催 日本建築学会（AIJ）北海道支部・北海道の住宅居住水準検討委員会